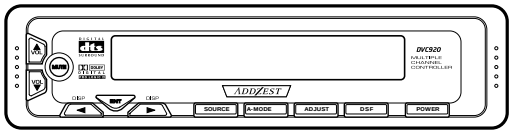
ADDZEST

5.1chサラウンドデコーダー用
コントロールユニット

# DVC920

## 取扱説明書

目次page>>>




**このたびは、アゼスト商品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。**

- 安全に正しくご利用いただくため、ご使用前にこの**「取扱説明書」**をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 保証書（別添）はお買い求めの販売店で記入いたしますので、内容をよくご確認のうえ、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

# 目　次


## はじめに

*ご使用の前に知っておいていただきたいご注意を説明しています。*

### ■ご使用の前に

安全に正しくお使いいただくために ..... 3
安全上のご注意 ..... 4
ご確認事項 ..... 7
スタンドアローンモードについて ..... 7

## 本機の操作

### ■各部の名称とはたらき

コントロールユニット部 ..... 8
ディスプレイ部 ..... 9

### ■基本の操作

電源を入れる ..... 10
入力ソースを切り換える ..... 10
音量を調節する ..... 11
音を消す(ミュート) ..... 11
ディスプレイ表示を切り換える ..... 11
DSF(Digital Sound Field)を設定する ..... 12
各スピーカーの音量バランスを調整する(オーディオモード) ..... 13

### ■初期設定を変更する(アジャストモード)

設定項目を選ぶ ..... 14
コントラストを調整する(CONTRAST) ..... 15
スピーカーの有無を設定する(SP-SEL) ..... 15
スピーカーのフィルター周波数を設定する(FILTER) ..... 16
スピーカーの出力レベルを調整する(SP-GAIN) ..... 17
スピーカーのディレイ時間を調整する(DELAY) ..... 17
ドルビーデジタル機能を設定する(Dolby D) ..... 18
ドルビープロロジックⅡ機能を調整する(PLⅡ CNT) ..... 19
パラメトリックイコライザーを設定する(P.EQ) ..... 20
RCA入力感度を調整する(RCA SENS) ..... 21

## その他

### ■結線方法

結線のしかた ..... 22
結線上のご注意 ..... 23

### ■取付方法

取付場所 ..... 24
取り付けかた ..... 24

システムアップについて ..... 25
システム例 ..... 25
故障と思われる前に ..... 27
仕様 ..... 27
製品構成 ..... 27
アフターサービスについて ..... 裏表紙




# ご使用の前に



## 安全に正しくお使いいただくために

**絵表示について**

この「取扱説明書」への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

**⚠ 警 告**

**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**

**⚠ 注 意**

**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**

**絵表示の例**

**△ 記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。**
**図の中などには具体的な注意内容(左図の場合は指はさまれ注意)が描かれています。**

**⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。**
**図の中などには具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。**

**❗ 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。**

**●安全のため、ご使用の前に「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**

**●お読みになったあとはいつでも見られる所(グローブボックスなど)に必ず保管してください。**

## 安全上のご注意

### ■使用上のご注意

**⚠ 警告**

**●走行中は運転者による操作をしない・・・**
運転者が操作する場合は、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

**●本機を分解したり、改造しない・・・**
事故や火災、感電の原因となります。

**●音が出ないなどの故障状態で使用しない・・・**
事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

**●本機の取り付けおよび取り付けの変更は、安全のため、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に依頼する・・・**
そのまま使用すると事故や火災、感電の原因となります。

**●本機の取り付けおよび取り付けの変更は、安全のため、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に依頼する・・・**
専門技術と経験が必要です。

**⚠ 注意**

**●運転中の音量は、車外の音が聴こえる程度で使用する・・・**
車外の音が聴こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。

**●本機を車載用以外には使用しない・・・**
感電やケガの原因となることがあります。

### ■作業をはじめる前に

**⚠ 警告**

**●取り付ける車のバッテリー電圧を確認する・・・**
本機はDC12V車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車では使用しないでください。火災や故障などの原因となります。

**●配線作業中は、バッテリーのマイナス側のケーブルを外す・・・**
ショート事故による感電やケガの原因となります。

### ■取付場所について

**⚠ 警告**

**●本機を次のような場所に取り付けない・・・**
- 前方の視界を妨げる場所
- ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所
- 同乗者に危険を及ぼす場所運転操作を妨げたり、外れたりして、交通事故やケガの原因となります。

**⚠ 注意**

**●雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気、ほこりの多いところへは取り付けない・・・**
本機に水や湿気、ほこりが混入すると発煙や発火の原因となることがあります。

**●振動の多いところなど、確実に固定できないところには取り付けない・・・**
本機が外れて、事故やケガの原因となることがあります。

### ■取付上のご注意

**⚠ 注意**

**●必ず付属の部品を指定通りに使用する・・・**
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定されずに外れたりして、事故や故障などの原因となることがあります。

**●車体に穴を開けてコード類を配線するときは、絶縁性グロメットを使用する・・・**
開口部とコード類との接触により、すりきれてショートし、事故や火災の原因となることがあります。

**●車体の重要保安部品（ステアリング、シートレール、ブレーキ系統、ガソリンタンクなど）に取り付けられているボルトやナットは絶対に使用しない・・・**
これらを使用すると制動不能や故障、発火の原因となることがあります。

**●車体のネジを使用して取り付けを行うときは、ネジがゆるまないように確実に締め付ける・・・**
ネジがゆるみ、事故や故障などの原因となることがあります。

## 安全上のご注意

### ■取付上のご注意

**⚠ 警告**

**●車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認のうえ、これらと干渉や接触することがないように注意する・・・**
パイプ類などの破損により、火災や事故の原因となります。

### ■結線上のご注意

**⚠ 警告**

**●接続コード類の配線は高熱部を避けて行う・・・**
コード類の被覆が溶けてショートし、事故や火災の原因となります。特にエンジンルーム内の配線には注意してください。

**●コード類は、運転操作の妨げとならないようにまとめておく・・・**
ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。

**⚠ 注意**

**●正規の接続をする・・・**
誤った接続をすると、事故や火災の原因となることがあります。

**●コード類の結線終了後は、コード類をクランプや絶縁テープで確実に固定する・・・**
コード類が車体部分との接触により、すりきれてショートして、事故や火災の原因となることがあります。

**●車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない・・・**
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。





## ご確認事項

●本機は単体では動作しませんので、5.1chサラウンドデコーダーと合わせて、ご使用ください。接続可能なアゼストセンターユニットについては、「システムアップについて」(25ページ)をご覧ください。また、販売店または弊社お客様相談室にお問い合わせください。

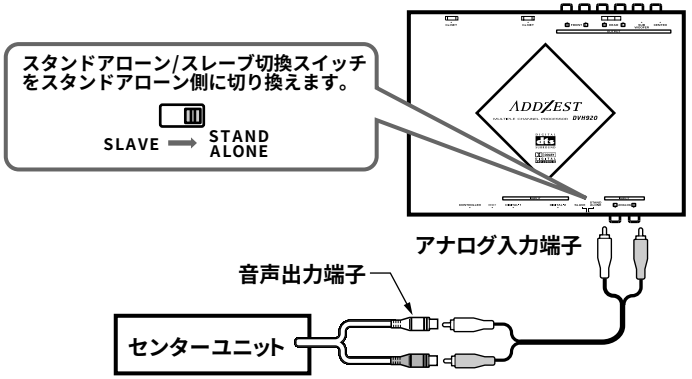
●本機(コントロールユニット)を接続するにあたって、5.1chサラウンドデコーダーのスタンドアローン/スレーブ切換スイッチを **"必ずスタンドアローン側"** に切り換えてください。また **"必ず電源コード"** を接続してください。また、改めて5.1chサラウンドデコーダーを、スレーブモードでご使用になる場合は、本機(コントロールユニット)は、接続しないでください。

●音響特性を最大限に発揮させるため、使用する前にスピーカーシステムの構成に合わせ、アジャストモードの「SP-SEL」「FILTER」「SP-GAIN」「DELAY」の初期設定を変更してください。(15～18ページ参照)

## スタンドアローンモードについて

●5.1chサラウンドデコーダーを、操作できないセンターユニットを接続する場合は、スタンドアローンモードに設定します。

●5.1chサラウンドデコーダーのアナログ入力端子は、本機(コントロールユニット)を接続することにより、使用することができます。また、2ch出力をドルビープロロジックII機能により5.1ch出力に変換することができます。

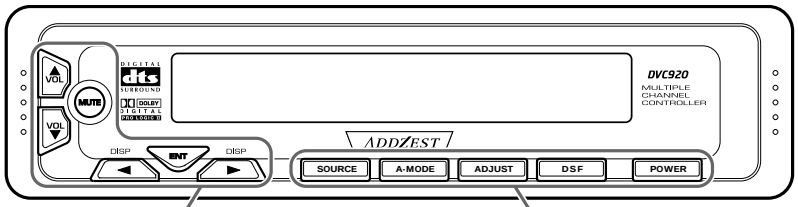



**ご注意**

- **アナログ入力端子に接続した場合は、「RCA入力感度を調整する」(21ページ)をご覧になり、音が歪まないように調整してください。**
- **「ドルビーデジタル機能を設定する」(18ページ)をご覧になり、ドルビープロロジックIIモードを選択してください。**
- **DSP内蔵のセンターユニットを接続した場合は、センターユニット側のDSP機能をOFFに設定してください。**

# 各部の名称とはたらき

## コントロールユニット部




**音量調整ボタン**
- 音量をアップ/ダウンします。
- アジャストモードやオーディオモード時には各種の設定に使います。

**ミュートボタン**
- 消音します。

**ENTボタン**
- アジャストモード時の調整モードに切り換えます。

**ディスプレイボタン**
- ディスプレイ表示を切り換えます。
- アジャストモード時に設定項目を切り換えます。

**入力切換ボタン**
- 入力ソースを切り換えます。

**オーディオモードボタン**
- 各スピーカーの音量バランスを調整します。

**アジャストボタン**
- アジャストモードに切り換えます。

**DSFボタン**
- DSFの設定を切り換えます。

**電源ボタン**
- 電源をON/OFFします。

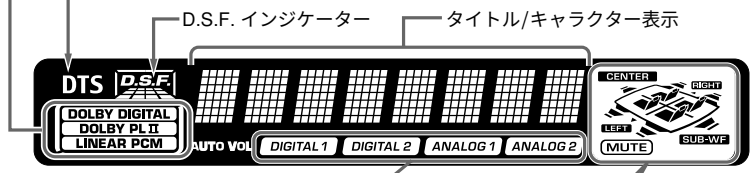
## ディスプレイ部

**DOLBY DIGITAL**（ドルビーデジタルインジケーター）
：デジタル入力端子より、ドルビーデジタルを再生したときに点灯

**DOLBY PL II**（ドルビープロロジックⅡインジケーター）
：ドルビープロロジックⅡ機能の各モードを選択したときに点灯

**LINEAR PCM**（リニアPCMインジケーター）
：デジタル入力端子より、CD/リニアPCMを再生したときに点灯

**DTS**（DTS インジケーター）
：デジタル入力端子より、DTSを再生したときに点灯



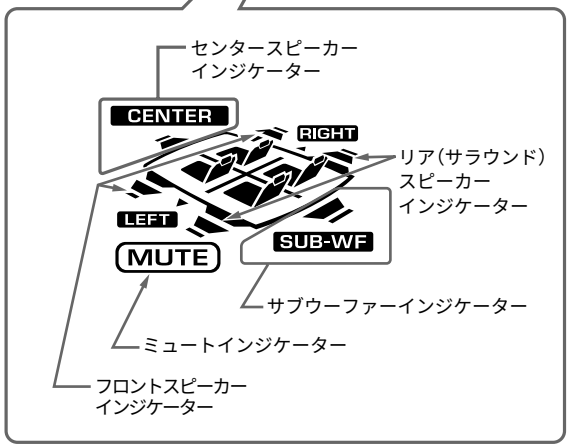

**入力切換ボタンを押して、入力ソースを切り換えたときに表示します。**

***DIGITAL 1*:**
**デジタル入力端子1**に接続されたデジタル信号を再生するとき

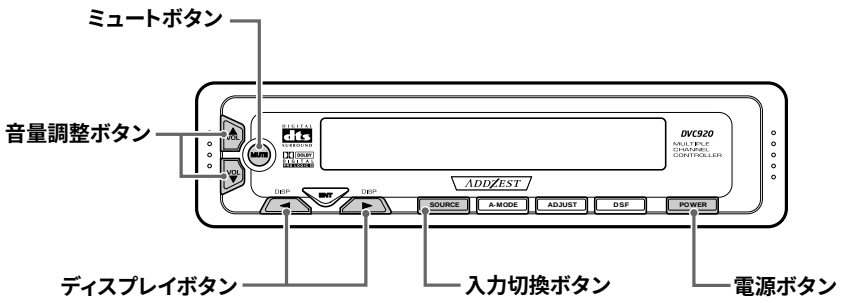
***DIGITAL 2*:**
**デジタル入力端子2**に接続されたデジタル信号を再生するとき

***ANALOG 1*:**
**アナログ入力端子(RCA)**に接続されたアナログ信号を再生するとき

***ANALOG 2*:**
**CeNET端子**に接続されたアナログ信号を再生するとき



# 基本の操作




## 電源を入れる

**1 電源ボタンを押す**

POWER

→コントロールユニット のディスプレイに設定内容を表示します。

**ご注意**

**・車のバッテリーあがり防止のため、本機の操作はエンジンをかけた状態で行ってください。**

***■電源を切るときは…***

**電源ボタンを押してください。**

## 入力ソースを切り換える

***入力ソースの切り換えについて…***

本機に入力される信号に応じて設定を切り換えてください。

**・初期設定は「*DIGITAL1*」です。**

・「***DIGITAL 1***」:デジタル入力端子1に接続されたデジタル信号を再生するとき

・「***DIGITAL 2***」:デジタル入力端子2に接続されたデジタル信号を再生するとき

・「***ANALOG 1***」:アナログ入力端子(RCA)に接続されたアナログ信号を再生するとき

・「***ANALOG 2***」:CeNET端子に接続されたアナログ信号を再生するとき

**1 入力切換ボタンを押す**

SOURCE

→押すたびに、次のように入力ソースが切り換わります。

***DIGITAL 1*** → ***DIGITAL2***
↑ ↓
***ANALOG 2*** ← ***ANALOG 1***

・7秒間ボタン操作をしなかったときは、元のモードに戻ります。

**ご注意**

**・再生する音声フォーマットが識別される短時間の間、音が途切れる場合があります。**

**・音声を再生しているときに、DVDプレーヤー側でスキップやポーズ等の操作をすると、短時間の間ノイズが発生する場合があります。**

## 音量を調節する

**1 音量調整ボタンを押す**

VOL：音量を大きくします

VOL：音量を小さくします

**⚠警 告**

**・DVDビデオの場合は,特に大きな音で再生されることがあります。音量はビデオ映像が表示されてから、最小から徐々にあげてください。**

**・音量調節は、本機(コントロールユニット)側で行ってください。センターユニット側では、調節できません。**

## 音を消す(ミュート)

**1 ミュートボタン を押す**

MUTE

→コントロールユニットのディスプレイに「***MUTE***」を表示します。

***■元の音量に戻すには…***

**もう一度ミュートボタンを押してください。**

## ディスプレイ表示を切り換える

***表示の切り換えについて…***

お好みに合わせて表示を切り換えてください。

**・初期設定は「*SS-1*」です。**

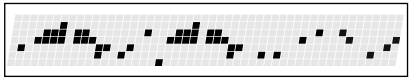
**1 ディスプレイボタンを押す**

DISP ◄　DISP ►

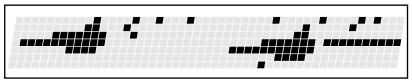
→ディスプレイボタンの ◄ または ► を押すたびに、次のように切り換わります。

***SS-1*** → ***SS-2***
↑ ↓
***PROGRAM*** ← ***DISP OFF***

● ***SS 1***:ディスプレイにイルカを表示します。



● ***SS 2***:ディスプレイに飛行機を表示します。



● ***DISP OFF***:ディスプレイに表示されません。

● ***PROGRAM***

デジタル入力端子から入力された信号のフォーマットを表示します。

・***MONO*** :モノラル音声

・***STEREO*** :ステレオ音声

・***ST-96K*** :サンプリング周波数96kHzのステレオ音声

・***Lt/Rt*** :サラウンド音声がエンコードされた2チャンネル音声

・***1+1*** : 独立したモノラル音声

・***1/0*** :センターチャンネル音声

・***2/0*** :フロント2チャンネル音声

・***2/1*** :フロント2チャンネル音声
サラウンドモノラル音声

・***2/2*** :フロント2チャンネル音声
サラウンド2チャンネル音声

・***3/0*** :フロント3チャンネル音声

・***3/1*** :フロント3チャンネル音声
サラウンドモノラル音声

・***3/2*** :フロント3チャンネル音声
サラウンド2チャンネル音声

・***＊/＊+ LFE*** :低域チャンネル音声

・***NoSIGNAL*** :デジタル信号を入力していない場合

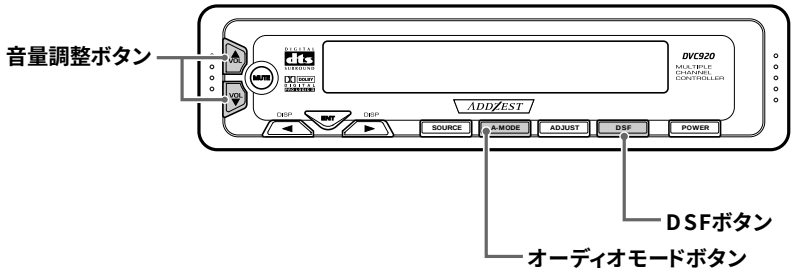
・***ーーーー*** :リニアPCM、ドルビーデジタルDTS以外の信号が入力された場合

・***Fs ERR*** :サンプリング周波数32kHz、44.1kHz、48kHz、96kHz以外の信号が入力された場合

・***CLIP*** :DSPの出力がクリップした場合

**ご注意**

**・アナログ入力端子(RCA)「*ANALOG 1*」およびCeNET端子「*ANALOG 2*」から入力された信号は、「*STEREO* 」表示になります。**




## DSF(Digital Sound Field)を設定する

***DSFについて…***

DSF(Digital Sound Field)は,音場シミュレーションでホールやライブハウスなど、その場所にいるような臨場感が手軽に得られます。
DTS、ドルビーデジタル、リニアPCM等の全てのフォーマットにおいて、またドルビープロロジックⅡをデコードした後に、6パターンの音場効果をかけることができます。

- **初期設定は「*DSF OFF*」です。**
- 音場プログラムは、聴感上最も適したものを選択してください。
- DSFメニューを選択した場合､音量が小さくなる場合があります。

### *1* DSFボタンを押す。

DSF

→DSFボタンを押すたびに､次のように切り換わります。

- ***DSF OFF*** …音楽ソースをそのまま再生
- ***HALL***(ホール) …小規模なホールのような音場
- ***CHURCH*** (チャーチ) …天井が高い大聖堂のような音場
- ***STADIUM*** (スタジアム) …広く天井や壁のない球場のような音場
- ***LIVE*** (ライブ) …ジャズクラブより大きめのライブハウス
- ***JAZZCLUB*** (ジャズクラブ) …天井が低いジャズクラブのような音場
- ***THEATER*** (シアター) …劇場や映画館のような音場

- 7秒間ボタン操作をしなかったときは、元のモードに戻ります。

## 各スピーカーの音量､バランスを調整する(オーディオモード)

### *1* オーディオモードボタンを押す。

A-MODE

→オーディオモードボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

「***SUB-W***」→「***CTR***」→「***BAL***」→「***FAD***」→元のモード

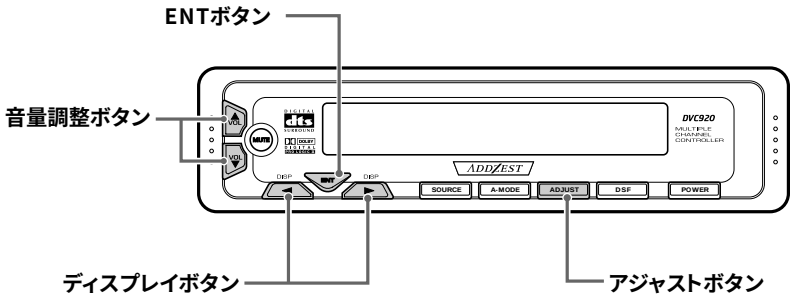
- 7秒間ボタン操作をしなかったときは、元のモードに戻ります。

### *2* 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して､音量を調整する

VOL ▲　VOL ▼

- ***SUB-W*** (サブウーファー):
  サブウーファーの音量を、－6～＋3の範囲で調整します。
- ***CTR*** (センタースピーカー):
  センタースピーカー の音量を、－6～0の範囲で調整します。
- ***BAL*** (バランス):
  左または右スピーカーの音量を、L13～R13の範囲で調整します。
- ***FAD*** (フェダー):
  前方または後方スピーカー(サラウンドスピーカー)の音量を、R12～F12の範囲で調整します。

# 初期設定を変更する(アジャストモード)




## 設定項目を選ぶ

**1** アジャストボタンを押して、アジャストモードにする

ADJUST

**2** ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、設定項目を選ぶ

DISP ◄　DISP ►

→ディスプレイボタンの ◄ または ► を押すたびに、設定項目が右図のように切り換わります。

**3** 末尾に E が表示されている項目名は、ENTボタンを押して、調整内容を表示させる

ENT

•末尾に E の表示がない項目名は、2秒後に設定内容表示に切り換わります。

**4** 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、設定する

VOL ▲　VOL ▼

●アジャストモード設定項目

プレイ/ポーズボタンを押す

- *CONTRAST*
  • コントラストを調整する
- *SP-SEL* E
  • スピーカーの有無を設定する
- *FILTER* E
  • スピーカーのフィルター周波数を設定する
- *SP-GAIN* E
  • スピーカーの出力レベルを調整する
- *DELAY* E
  • スピーカーのディレイ時間を設定する
- *Dolby D* E
  • ドルビーデジタル機能を設定する
- *PL II CNT* E
  • ドルビープロロジックII機能を調整する
  （*Dolby D* の設定で「*MUSIC*」にした場合）
- *P.EQ* E
  • パラメトリックイコライザーを設定する
- *RCA SENS*
  • RCA入力感度を調整する

ENT

設定内容を表示します

***■元のモードに戻すには…***

設定終了後に、アジャストボタンを押してください。

ADJUST

## コントラストを調整する (CONTRAST)

この機能は、画面の明るさを調整します。

• **初期設定は「*CNTRST.4*」です。**

**1** アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「*CONTRAST*」を選ぶ

ADJUST → DISP ◄　DISP ►

**2** 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、コントラストを調整する

VOL ▲　VOL ▼

→コントラストの調整範囲は、「*1*」～「*7*」の範囲です。ディスプレイ表示の変化を見ながら設定してください。

**3** アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

ADJUST

## スピーカーの有無を設定する (SP-SEL)

センタースピーカー、リア(サラウンド)スピーカー、サブウーファーの有無を設定します。

• **初期設定は「*ON*」です。**

**1** アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して「*SP-SEL* E」を選ぶ

ADJUST → DISP ◄　DISP ►

**2** ENTボタンを押す

ENT

**3** ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、スピーカーを選ぶ

DISP ◄　DISP ►

→押すたびに、次のように切り換わります。

- ***CTR-SP*** :センタースピーカー
- ***SRD-SP*** :リア(サラウンド)スピーカー
- ***SUB-W*** :サブウーファー

**4** 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、「*ON*」又は「*OFF*」を選ぶ

VOL ▲　VOL ▼

- ***ON*** :スピーカ有のとき
- ***OFF***:スピーカ無しのとき
- サブウーファーのときは、「***ON***+」、「***ON***−」あるいは「***OFF***」を表示します。通常は「***ON***+」を選択しますが、聴感上「***ON***−」の方が低域の効果が感じられる場合には「***ON***−」を選択します。

**5** アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

ADJUST

# 初期設定を変更する(アジャストモード)

## スピーカーのフィルター周波数を設定する(FILTER)

***フィルター周波数について…***
使用するスピーカーにあったフィルター周波数を設定します。

- **「*F HPF*」,「*SRD HPF*」の初期設定は、「*THROUGH*」です。**
- **「*CTR HPF*」,「*SW LPF*」の初期設定は、120Hzです。**
- **「スピーカーの有無を設定する」で「*OFF*」にしたスピーカーは、表示しません。**

***■フィルター調整について***

**・*HPF* (ハイパスフィルターの調整)**
フロント/センター/リアスピーカーから低域の音をカットします。

***50Hz,80Hz,120Hz***
小口径スピーカーを使用するとき設定します。
***THROUGH***
低音再生が可能なスピーカーを使用するとき設定します。

**・*SW LPF* (サブウーファーローパスフィルターの調整)**
サブウーファーから高域の音をカットします。

***50Hz,80Hz,120Hz***
サブウーファーに合わせてフィルター周波数を設定します。

**1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの◄または► を押して、「*FILTER* E」を選ぶ**

**2 ENTボタンを押す**

**3 ディスプレイボタンの◄ または ► を押して、調整するスピーカーを選ぶ**

→押すたびに、次のように切り換わります。

- ***F HPF*** :フロントスピーカー
- ***CTR HPF*** :センタースピーカー
- ***SRD HPF*** :リア(サラウンド)スピーカー
- ***SW LPF*** :サブウーファー

**4 音量調整ボタンの▲または▼を押して、周波数を選ぶ**

- 「***F HPF***」,「***SRD HPF***」の調整範囲は、THROUGH(調整なし),50Hz,80Hz,120Hzです。
- 「***CTR HPF***」「***SW LPF***」の調整範囲は、50Hz,80Hz,120Hzです。

**5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る**

## スピーカーの出力レベルを調整する(SP-GAIN)

内蔵のテストトーン機能を使用して、各スピーカから出力される音量が、全て同じレベルになるように調整してください。

- **初期設定は「*0dB* 」です。**
- **「スピーカーの有無を設定する」で「*OFF*」にしたスピーカーは、表示しません。**

**1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの◄または► を押して「*SP-GAIN* E」を選ぶ**

**2 ENTボタンを押す**

**3 ディスプレイボタンの◄ または ► を押して、調整するスピーカーを選ぶ**

→押すたびに、次のように切り換わります。

- ***FRONT-L*** :フロント左スピーカー
- ***CENTER*** :センタースピーカー
- ***FRONT-R*** :フロント右スピーカー
- ***SRD-R*** :リア右スピーカー
- ***SRD-L*** :リア左スピーカー
- ***SUB-W*** :サブウーファー

**4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、ゲインを調整する**

- 調整範囲は－10dB～＋10dBです。
- 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押し続けると、早送り状態で切り換わります。

**ご注意**

- **出力レベルを上げすぎると、音が歪み、「CLIP]表示する場合があります。その時は、「CLIP]表示が消えるまで、出力レベル(GAIN)を下げてご使用ください。**

**5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る**

## スピーカーのディレイ時間を調整する(DELAY)

スピーカーの取付や車の大きさにより、それぞれのスピーカーからリスニング位置に届く音のタイミングが異なります。それぞれのスピーカーのディレイ時間を調整することにより、フロントスピーカーの出力と同じタイミングで聴こえるように調整します。

- **初期設定は「*0ms*」です。**
- **「スピーカーの有無を設定する」で「*OFF*」にしたスピーカーは、表示しません。**

**1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの◄または► を押して、「*DELAY* E」を選ぶ**

**2 ENTボタンを押す**

**3 ディスプレイボタンの◄ または ► を押して、調整するスピーカーを選ぶ**

→押すたびに、次のように切り換わります。

- ***CTR-SP*** :センタースピーカー
- ***SRD-SP*** :リア(サラウンド)スピーカー

次ページに続く

# ▌初期設定を変更する(アジャストモード)

**4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、ディレイ時間を調整する**

- 「*CTR-SP*」の調整範囲は、0～5msです。
- 「*SRD-SP*」の調整範囲は、0～15msです。
- 音量調整ボタンの▲または▼を押し続けると、早送り状態で切り換わります。

**5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る**

## ドルビーデジタル機能を設定する(Dolby D)

***■ダイナミックレンジコンプレッション機能 (D-RANGE)***

ドルビーデジタルのダイナミックレンジを圧縮する機能で、映画のセリフなどの小さな音を維持して、大音量を抑制します。

- この機能はドルビーデジタル方式のDVDソフトにのみ有効です。

***■ドルビープロロジックII機能(Dolby PL II)***

ドルビープロロジックIIは最新のデジタルマトリクス技術を応用し、これまでのドルビープロロジックをさらに改良したマトリクスデコード技術です。ドルビーサラウンドソースをはじめ、CDのようなステレオ音源に対しても優れた5.1ch再生を実現します。
サラウンドチャンネルはフルバンド化(20Hz～20kHz)ステレオ化され、あらゆるステレオ音源は、5.1chの迫力あるサウンドでお楽しみいただけます。

***MUSIC MODE ( ミュージックモード)***
- CDなどのステレオ音源に適したモードです。

***MATRIX MODE ( マトリックスモード)***
- AM/FMラジオなどの音源に適したモードです。

***MOVIE MODE ( ムービーモード)***
- 映画ソースなどの音源に適したモードです。

***VIRTUAL MODE ( バーチャルモード)***
- 映画ソースなどの音源に適したモードです。

**ご注意**

**・DTS、リニアPCM(96kHz)および2チャンネル以外の信号は、ドルビープロロジックII機能の音場効果は、かかりません。**

**1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「*Dolby D* E」を選ぶ**

**2 ENTボタンを押す**

**3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「*D-RANGE*」または「*Dolby PL II*」を選ぶ**

**4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、調整する**

→「*D-RANGE*」のときは、「*MAX*」、「*STD*」、「*MIN*」の順に切り換わります。

**・初期設定は「*MAX*」です。**

- ***MAX*** :オリジナルソースそのままのダイナミックレンジ最大のモード
- ***STD*** :一般視聴用として推奨するモード
- ***MIN*** :小音量でも聴きやすい、ダイナミックレンジを最も圧縮したモード

→「*Dolby PL II*」のときは、「*OFF*」、「*MUSIC*」、「*MATRIX*」、「*MOVIE*」、「*VIRTUAL*」の順に切り換わります。

**・初期設定は「*OFF*」です。**

**・ドルビープロロジックIIモードを選択した場合、ドルビープロロジックIIの特性上、音量が小さくなります。ドルビープロロジックIIモードを「OFF」する時は、音量を下げてから切換えてください。**

次ページに続く

**・「スピーカーの有無を設定する」でセンタースピーカー及びリアスピーカーを「*OFF*」した場合は、ドルビープロロジックIIモードの選択は、できません。**

**5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る**

## ドルビープロロジックII機能を設定する(PLII CNT)

この機能は、アジャストモード項目「*Dolby D*」のドルビープロロジックII機能を「*MUSIC*」に選択した場合に、調整できます。
設定のしかたは、前ページをご覧ください。

**・初期設定は、パノラマ「*OFF*」、ディメンション、センターワイズ「*3*」です。**

**・「スピーカーの有無を設定する」でセンタースピーカーを「*OFF*」にした場合は、センターワイズの調整できません。**

***■各調整項目について***

**・*PANORAMA* (パノラマコントロールの設定)**
フロントの音場イメージをリアスピーカーまで拡大します。サラウンド効果がないと感じられる場合に、「*ON*」に設定してください。

**・*DIMENS.* (ディメンションの設定)**
音場イメージをフロント側またはリア側にシフトします。音場イメージがフロント・リア側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。

調整値3が中心位置です。調整値3～0でフロント側にシフトし、調整値3～6でリア側にシフトします。

**・*C-WIDTH* (センターワイズの設定)**
センターチャンネルの定位をセンタースピーカーからフロントスピーカーL/Rの間で調整します。センター音を左右に振り分けることにより、全体の音場イメージが増し自然な広がり感を得ることができます。

調整値0は、全てのセンター音をセンタースピーカーで再生します。
調整値7は、現行のステレオ音声同様、センター音をフロントスピーカーL/Rに振り分けます。

**1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して「*PL II CNT* E」を選ぶ**

**2 ENTボタンを押す**

**3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、調整項目を選ぶ**

→押すたびに、次のように切り換わります。

●調整項目

***PANORAMA***
↓
***DIMENS.***
↓
***C-WIDTH***

**4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、調整する**

- 「*PANORAMA*」の設定を、ON/OFFします。
- 「*DIMENS.*」の調整範囲は、0～6です。
- 「*C-WIDTH*」の調整範囲は、0～7です。

**5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る**

# ▌初期設定を変更する(アジャストモード)

## パラメトリックイコライザーを設定する(P.EQ)

ご使用の車室内特性に合わせて、パラメトリックイコライザーによる周波数特性を補正することができます。

**・初期設定は、すべてのスピーカーで次のように設定しています。**
***FREQ*=1KHz、*Q*=1、*GAIN*=0dB**

### ■*P.EQの調整について*

**P.EQ メニューの調整内容は、以下の通りです。**

**・*EFFECT*：P.EQ効果のON/OFFを設定します。**

**・*SIGNAL*：調整用信号を選択します。**
「*P-NOISE*」:ピンクノイズを使用するとき。
「*MUSIC*」 :音楽信号を使用するとき。

**・*SP-SEL*：調整するスピーカーを選択します。**
「*FRONT*」:フロントスピーカー
「*CENTER*」:センタースピーカー
「*SRD*」 :リア(サラウンド)スピーカー

**・*BAND* ：調整する周波数バンド(BAND1～3)を選択します。**

**・*FREQ* ：BAND1～3における周波数を調整します。**
**調整範囲は、20Hz～20kHzです。**
音量調整ボタンの ▲ または ▼を押し続けると、早送りで切り換わります。

**・*Q* ：Qカーブを調整します。**
**調整範囲は、1～ 20です。**
Qカーブは、数値を大きく設定すると特性曲線が鋭く、数値を小さくすると緩やかな特性曲線になります。
音量調整ボタンの ▲ または ▼を押し続けると、早送りで切り換わります。

**・*GAIN* ： 出力レベルを調整します。**
**調整範囲は－12dB～＋12dBです。**
音量調整ボタンの ▲ または ▼を押し続けると、早送りで切り換わります。

**ご注意**

**・出力レベルを上げすぎると、音が歪み、「CLIP]表示する場合があります。その時は、「CLIP]表示が消えるまで、出力レベル(GAIN)を下げてご使用ください。**

**1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「*P.EQ* E」を選ぶ**

**2 ENTボタンを押す**

**3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、調整項目を選ぶ**

→押すたびに、次のように切り換わります。

●調整項目

***EFFECT*** ：P.EQ効果の設定
↓
***SIGNAL*** ：調整用信号選択
↓
***SP-SEL*** ：スピーカー選択
↓
***BAND*** ：バンド（1～3）選択
↓
***FREQ*** ：周波数（20Hz～20kHz）
↓
***Q*** ：Qカーブ （1/3/5/7/20）
↓
***GAIN*** ：ゲイン（－12dB～＋12dB）

**4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、調整する**

**5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る**

## RCA入力感度を調整する (RCA SENS)

この機能は、アナログ入力端子(*ANALOG1*)の入力感度を調整します。

**・初期設定は「*LOW*」です。**

**・この機能は、入力ソースの切り換えを「*ANALOG1*」にしたときに対応されます。**

**1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「*RCA SENS*」を選ぶ**

**2 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、「*LOW*」,「*MID*」,「*HIGH*」から選ぶ**

**3 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る**

**ご注意**

**・入力感度レベルをHIGHにした場合、接続する機種により、音が歪む場合があります。その時は、入力感度レベルを下げてご使用ください。**
**また、アゼストセンターユニット(4V出力)を接続した場合、センターユニットの音量を30に設定し、入力感度レベルを「LOW」でご使用することをおすすめします。**

**・音量調節は、本機(コントロールユニット)側で行ってください。**

その他

# 結線方法

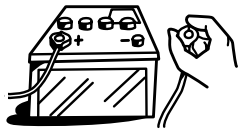
## 結線のしたか

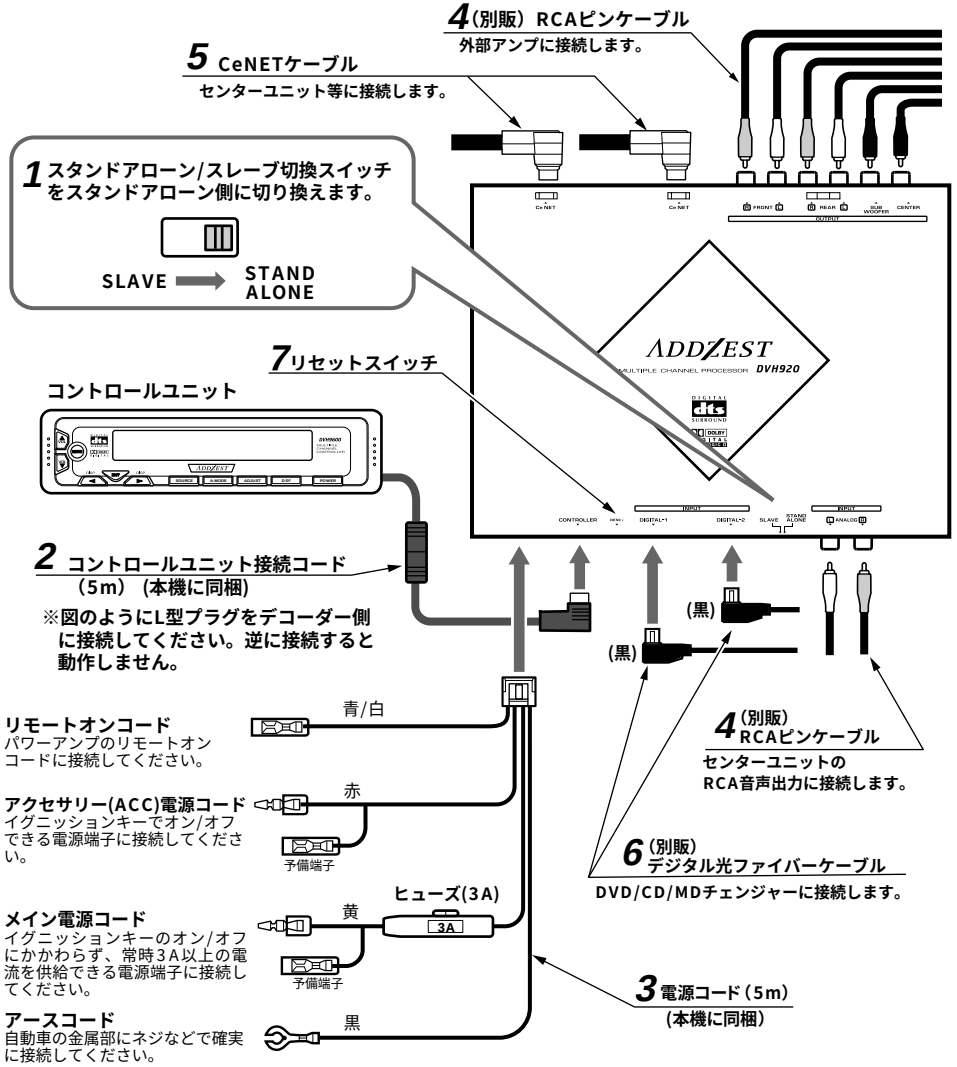
**下図の番号の順にしたがって作業を行ってください。**

※ 手順4～6は、接続する機器により異ります。詳しくは、「システム例」（25,26ページ）をご覧になり接続してください。

**⚠ 警 告**

**配線作業中は、バッテリーのマイナス側のケーブルを外してください。**
**ショート事故による感電やケガの原因となります。**
**また、ショート事故による機器内部の部品を破損する原因となります。**






## 結線上のご注意

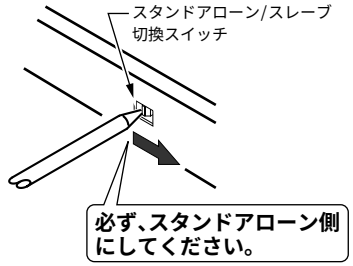
### 1.スタンドアローン/スレーブ切換スイッチ

スタンドアローン/スレーブ切換スイッチを、スタンドアローン側にします。

**＊工場出荷時は、スレーブ側です。**

**⚠注 意**

**スタンドアローン/スレーブ切換スイッチの切り換えは、CeNETケーブルまたは電源コネクターを抜いた状態で、プラスチック製の棒などで切り換えてください。また、スイッチの破損やショートによる事故防止のため、金属製のものや大きなドライバーなどは使用しないでください。**




### 2.コントロールユニット接続コード

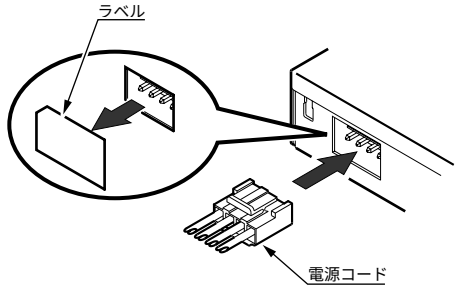
コントロールユニット接続コードのL型プラグ側を、デコーダー側に確実に差し込んでください。

### 3.電源コード

電源端子部のラベルをはがし、図のような向きにして、ロックするまで確実に差し込んでください。

**ご注意**

**電源コードは、必ず、接続してください。**

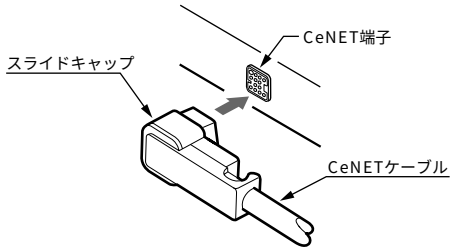



### 4.RCAピンケーブル（別販）

RCAピンケーブルを接続するときは、接続先を確認してから接続してください。

### 5.CeNETケーブル

CeNETケーブルは図のような向きにして、ロックするまで確実に差し込んでください。

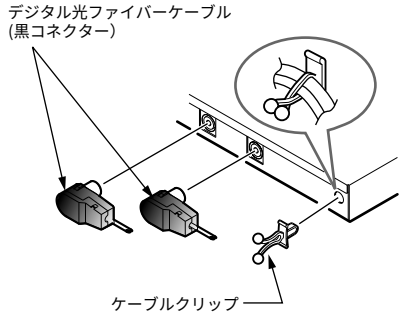



### 6.デジタル光ファイバーケーブル（別販）

デジタル入力端子に、黒コネクターをロックするまで確実に差し込んでください。ケーブルクリップは、デジタル光ファイバーケーブルを2本まで固定できます。

**ご注意**

**デジタル光ファイバーケーブルを抜き差しは、必ず電源をOFFにして行ってください。**




### 7.リセットスイッチ

結線終了後、リセットスイッチを押して、初期状態にしてください。

その他

# 取付方法

## 取付場所

**1**.小物入れなどに置くか、センターコンソールなどに貼り付けてください。

**ご注意**

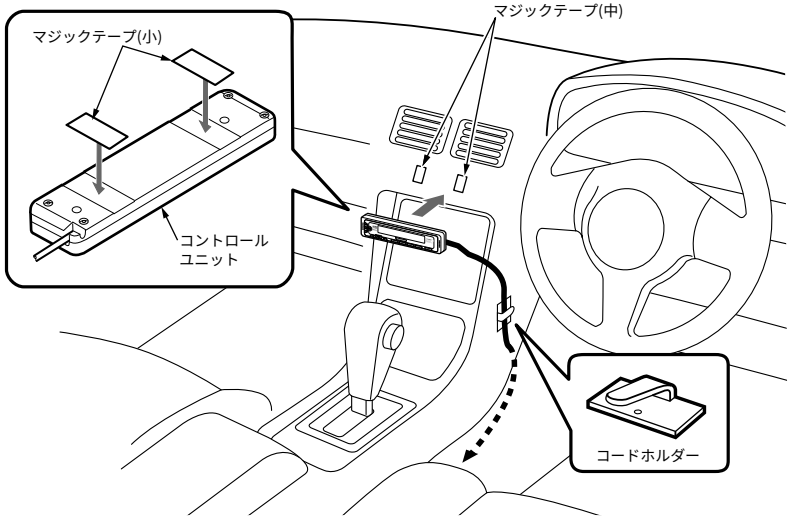
**コントロールユニットは、高温になる場所(ダッシュボードなど)に取付けないでください。変形・故障の原因になります。**

## 取り付けかた

**1**.コントロールユニットに、マジックテープ(小)を貼り付けます。
※ 貼り付ける面の汚れを拭きとってから貼り付けてください。

**2**.センターコンソール等に、マジックテープ(中)を貼り付け、コントロールユニットを取付けます。
※ 貼り付ける面の汚れを拭きとってから貼り付けてください。

**3**.コードホルダーを使用してコードを固定してください。

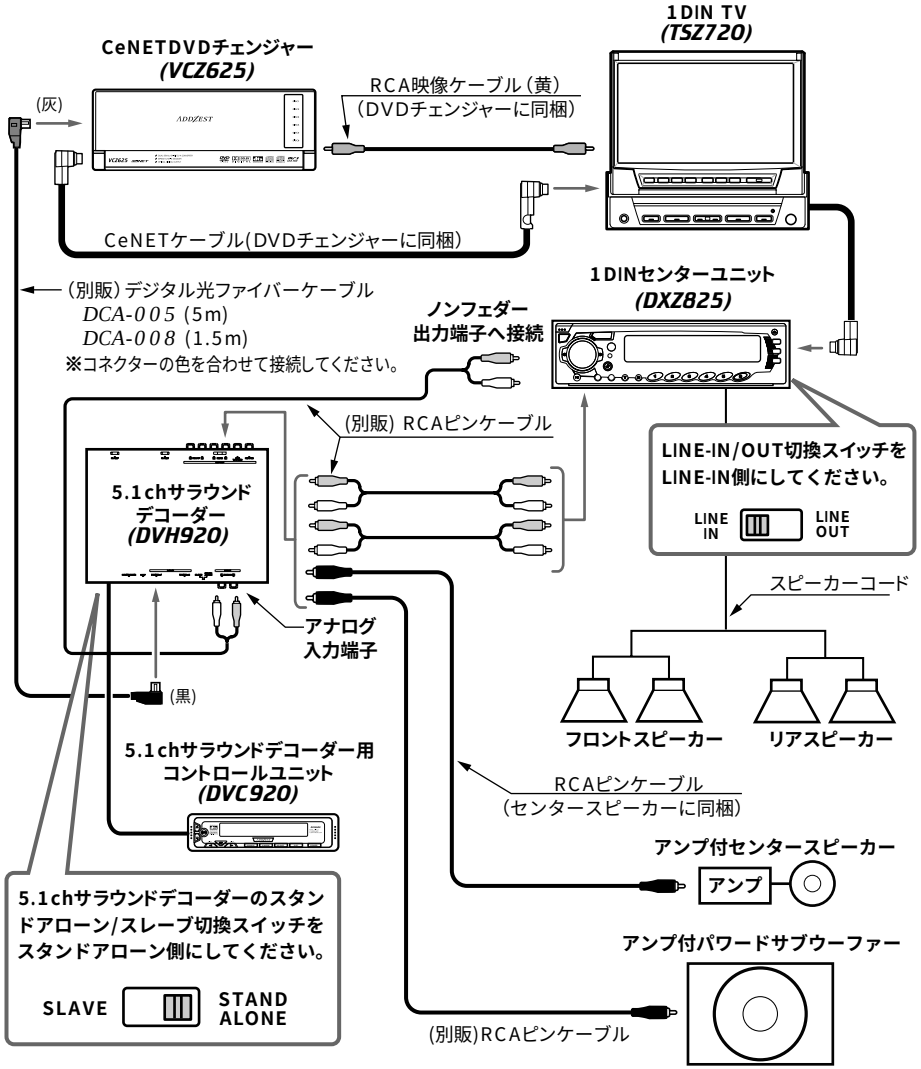





# システムアップについて

## システム例(DXZ825+DVDチェンジャー+モニターの組み合せ)

■ ***5.1chサラウンドデコーダーをコントロールできないアゼストセンターユニット(CeNET対応)でも、本機(コントロールコニット)を接続することにより操作することができます。***



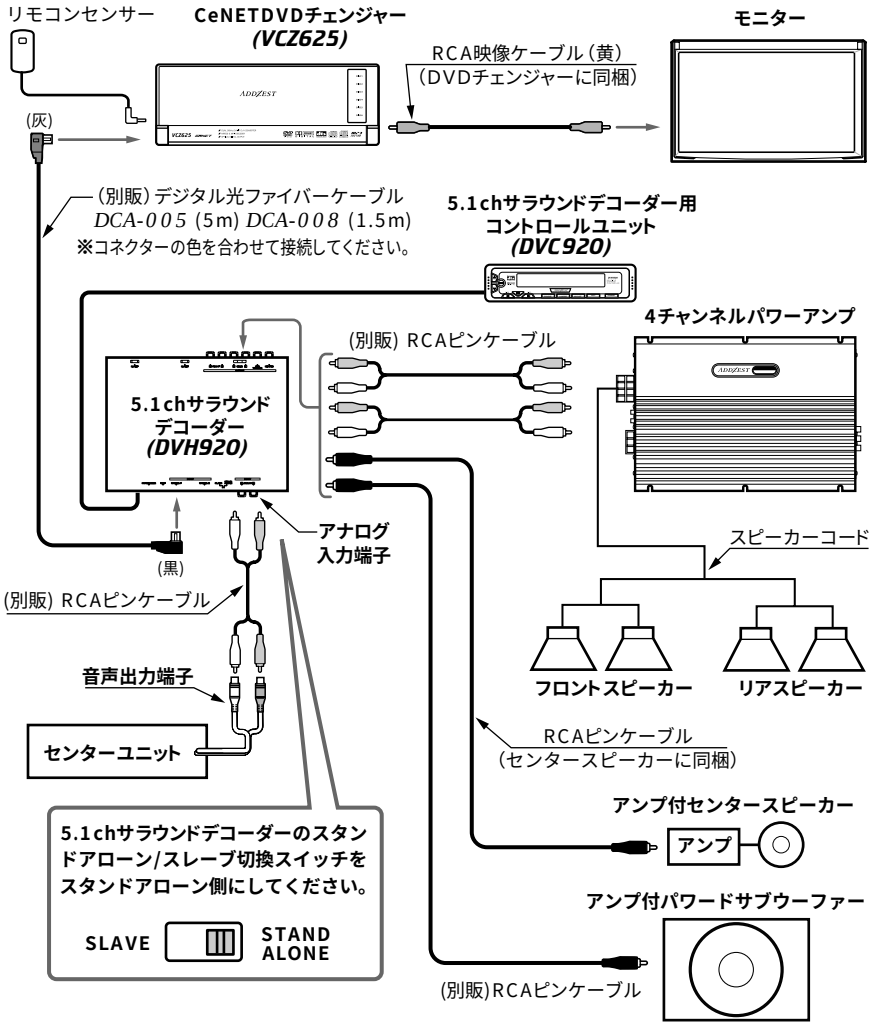

**ご注意**

- **DVDチェンジャーのCeNET/スタンドアローン切換スイッチを、"CeNET側 "に切換えてください。**
- **光ファイバーケーブルを接続する場合は、DVDチェンジャーの音声出力端子(AUDIO OUT)は、接続しないでください。また、DVDチェンジャーに付属の取扱説明書の「初期設定を変更する」をご覧になり、「GENERAL SET UP」メニューの「AUDIO OUT」を「SPDIF/RAW 」に変更してください。**
- **DVC920に付属の電源コードは、必ず、5.1chサラウンドデコーダーに接続してください。**

# システムアップについて

## システム例(センターユニット + DVDチェンジャー +モニターの組み合せ)

***■ 5.1chサラウンドデコーダーをコントロールできないRCA2ch音声出力のあるセンターユニットでも、本機（コントロールコニット）を接続することにより操作することができます。また、DVDチェンジャーは、デジタル結線が可能です。***



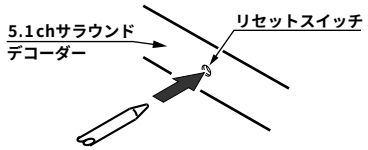

**ご注意**

- **DVDチェンジャーのCeNET/スタンドアローン切換スイッチを ”スタンドアローン側 ”に切換えてください。**
- **光ファイバーケーブルを接続する場合は、DVDチェンジャーの音声出力端子（AUDIO OUT)は、接続しないでください。また、DVDチェンジャーに付属の取扱説明書の「初期設定を変更する」をご覧になり、「GENERAL SET UP」メニューの「AUDIO OUT」を「SPDIF/RAW 」に変更してください。**
- **DVC920に付属の電源コードは、必ず、5.1chサラウンドデコーダーに接続してください。**



# 故障と思われる前に

**次のような症状は、故障ではないことがあります。修理を依頼される前に、もう1度次のことをお調べください。**

| 症　状 | 原　因 | 処置 |
|---|---|---|
| 電源が入らない/音が出ない | ヒューズが切れている。 | 入っていたヒューズと同じ容量のヒューズと交換してください。再度切れる場合は、お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。 |
| | 配線が不完全 | お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。 |
| | 5.1chサラウンドデコーダーのスタンドアローン/スレーブ切換スイッチが **”スレーブ側 ”**になっている。 | 5.1chサラウンドデコーダーのスタンドアローン/スレーブ切換スイッチを **”必ず スタンドアローン側 ”**に切り換えてください。 |
| ボタンを押しても動作しない、ディスプレイが正確に表示しない。 | ノイズなどが原因で、マイコンが誤動作している。 | 5.1chサラウンドデコーダー側面のリセットスイッチを細い棒などで押してください。<br>リセットスイッチを押すとメモリーしたタイトル等が全て消去されます。<br>  |

## 仕様/製品構成

***■仕様***

| | | |
|---|---|---|
| アナログ入力感度 | | ：LOW　2V |
| (アナログ入力端子(RCA)接続時のみ) | | ：MID　1.2V |
| | | ：HIGH　0.6V |
| 電源電圧 | ：DC14.4V(10.8V～15.6V)マイナス接地 | |
| 消費電流 | ：480mA | |
| 外形寸法 | ：160(W)×39(H)×20.6(D)mm | |
| 質量 | ：150g | |

***■製品構成***

- コントロールユニット(DVC920) ..... 1
- コントロールユニット接続コード(5m) ..... 1
- 電源コード(5m) ..... 1
- 取扱説明書 ..... 1
- 保証書 ..... 1
- マジックテープ(中) ..... 2
- マジックテープ(小) ..... 2
- コードホルダー ..... 2
- リードクランプ ..... 2

＊これらの仕様およびデザインは、改善のため、予告なく変更する場合があります。

**※DTSは米国Digital Theater Systems社の登録商標です。本製品は米国 Digital Theater Systems社からの実施権に基づき製造されています。**

**※ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。**
**Dolby、ドルビー、Pro Logic、及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。**

# アフターサービスについて

***■保証書***

この商品には、保証書が添付されています。お買い求めの際、販売店で所定事項を記入いたしますので、記入および記載事項をご確認のうえ、大切に保管してください。なお、保証書は再発行いたしませんので、ご注意ください。

***■保証期間***

お買い求めの日より1年間です。

***■万一故障が発生した場合***

保証期間中に、正常な使用状態で故障が発生した場合には、保証の記載内容に基づいて、無料で修理いたします。
お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

***■保証期間経過後の修理について***

修理することにより性能が維持できる場合には、お客様のご要望により、有料で修理いたします。

---


## クラリオン株式会社

本　　社　　〒112-0001　東京都文京区白山5-35-2
お客様相談室　〒335-0001　埼玉県戸田市上戸田 50
フリーダイヤル　0120-112-140（土・日・祝・祭日を除く
9：00～12：00、13：00～17：30）


| ご購入年月日 | 年　　月　　日 |
|---|---|
| ご購入店名 | |
| | TEL. |
| 製 造 番 号 | |

お客様へ……　ご購入年月日、ご購入店名などを記入されると、あとでお問い合わせされるときに便利です。


Printed in Japan　2002/5（CL.）　GC-951A　280-7808-01